

○ ケイガイ(荊芥)

語源

シゾネペタ属 *Schizonepeta* は、ギリシャ語 スキゾー「裂く、分割する」+イヌハッカ属 *Nepeta* から。これはシゾネペタ属の植物はイヌハッカ属と似ているが、葉は「裂けている」ため。ケイガイのシノニムには *Nepeta japonica* があるように、ケイガイをイヌハッカ属 *Nepeta* に含める見方もある。種小名 *tenuifolia* は、ラテン語 *tenuis* テヌイス「細い、薄い」+*folium* フオリウム「葉」で、「細い葉の」を意味する。

荊芥は、かつては「仮蘇(旧字は假蘇)」と呼ばれたが、これは味や香りがシソ(紫蘇)に似ているため。

基原

Schizonepeta tenuifolia Briquet ケイガイ

シソ科 1年生草本

ケイガイはアリタソウ(有田草)、ケイガイアリタソウとも呼ばれているが、これとは別にアカザ科にアリタソウという植物もあり、この全草は土荊芥という。

薬用部分

花穂

中国では花穂のついた全草を用いるが、花穂だけを荊芥穂、茎葉のみを荊芥梗という。日本薬局方では花穂のみが規定されている。また黒く炒ったものを黒荊芥あるいは荊芥炭という。

産地

中国(江蘇、浙江、江西、河北、湖北、湖南など)

主な成分

精油： (+)-メントン、(+)-リモネン、
(-)-プレゴンなど

モノテルペン配糖体： シゾネペトシドA~Eなど

フラボノイド配糖体： アピゲニン-7-O-β-グルコシド、ルテオリン-1-O-β-グルコシド、ヘスペリジン

主な薬効

発熱、解熱、鎮痛、抗炎症、抗菌

代表的処方

漢方処方用薬である。皮膚疾患用薬、消炎排膿薬とみなされる処方及びその他の処方に配合されている。

【防風通聖散】

ボウフウツウショウサン

体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの次の諸症：高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症(副鼻腔炎)、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、肥満症

(処方内容) 当帰/芍薬/川芎/山梔子/連翹/薄荷葉/生姜/荊芥/防風/麻黄/大黄/芒硝/白朮/桔梗/黄芩/甘草/石膏/滑石

【十味敗毒湯】

ジュウミハイドクトウ

体力中等度なものの皮膚疾患で、発赤があり、ときに化膿するもの次の諸症：化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、じんましん、湿疹・皮膚炎、水虫

(処方内容) 柴胡/桜皮(樸椒)/桔梗/川芎/茯苓/独活/防風/甘草/生姜/荊芥/連翹

【荊芥連翹湯】

ケイガイレンギョウトウ

体力中等度以上で、皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているもの次の諸症：蓄膿症(副鼻腔炎)、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきび

(処方内容) 当帰/芍薬/川芎/地黄/黄連/黄芩/黄柏/山梔子/連翹/荊芥/防風/薄荷葉/枳殼(実)/甘草/白芷/桔梗/柴胡

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「日本薬草全書」「漢方のくすりの事典」「家庭の民間薬・漢方薬」「一般用漢方製剤承認基準」



▲ 属名の基となったイヌハッカ (*Nepeta cataria*)



⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp